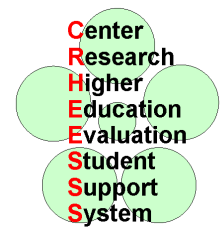


週刊センターニュース

No.330



第330号(2010年10月25日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daiyou_rche/index.htm

〇〇〇 産業・組織心理学会第28回大会、日本社会心理学会第51回大会

参加報告(1) 〇〇〇

産業・組織心理学会第28回大会、日本社会心理学会第51回大会の参加報告を、本号と次号にわたって行う。いずれも教育関連の研究者にとってかかわりの薄い学会と推察されるので、それぞれの学会の設立目的からまずは説明する。

先に設立されたのが、日本社会心理学会である。その設立目的は、同学会 HP (<http://www.soc.nii.ac.jp/jssp/index.html>) には以下のように書かれている。

「当学会は、狭い意味での社会心理学の専攻者だけでなく心理学、社会学、政治学、経済学、文化人類学、宗教学、言語学など、互いに隣接する諸科学の研究者で、とくに社会心理学に関心をもつものが集まって組織する団体です。

我が国の社会心理学は戦後急速に発展してきましたが、ご承知のように関連分野が非常に広い学問なので、とかく相互の連携が失われやすく、これが社会心理学の発展の大きな障害となっているように思われます。したがってこれらをつなぐ単一の学会の存在が強く望まれていたわけですが、この要望に沿って昭和30年有志によって「社会心理学懇談会」が結成されました。これが、会員の総意により発展的に改組されて、同35年『日本社会心理学会』が生れ、現在にいたっています。」

そしてもう一方の、産業・組織心理学会については、以下の通りである。

「20世紀初頭以来、人間の生涯における重みを一貫して増大させてきた経営組織体およびそれをめぐる諸状況は、21世紀を近い将来に望む今日に至って、情報技術を中心とする先端的技術革新の進展にともない、全く新しい局面を迎えようとしております。産業文明の深化とともに諸先達によりその研究が開始された産業心理学は、心理学の応用領域の中核としてすでに目ざましい発展をとげておりますが、情報化社会の本格的幕開けに臨み、一層の質的飛躍を求める挑戦に遭遇しております。

この挑戦は、産業文明の根幹である機能集団をめぐる諸々の人間問題を研究するために、私たちが立脚してきた前提そのものに対して根元的な問いを投げかけようとしています。経営体を職務の集合と見、これを基盤として産業文明における人間の行動と心を研究するといった理論枠組そのものが変換を迫られているのだと申せましょう。

生産と消費の主体である個人が、その使用価値にもとづいて類別、調達、活用、開発され、他者の管理意図によって組織され、所定の物理的環境の下に作業を遂行し、誘導された欲求体系に動かされて消費するといった状況は、すでに根底から揺らぎはじめており、真の生活者として充実した生き方を求める人びとの願望は今や臨界点に達しようとしております。

このような時代的背景をふまえ、(1)個々人および集団が人間の可能性を基盤として成長し、(2)効率

的であると同時に健康的かつ生きがいのある組織を形成し、(3)心と行動の統合体として作業を遂行し、(4)文化的生活者として消費することのできる条件を探究するため、私たちは、ここに産業・組織心理学会を設立することといたしました。本学会は、この趣旨に沿って研究分野を次の4部門に分かれ、研究者と実務家、個人と団体の有機的連帯の下に、当面する問題と基本的問題の両面に光をあてつつ活動を展開してゆきたいと考えております。(1) 人事部門 (2) 組織行動部門 (3) 作業部門 (4) 市場部門」(以上、同学会 HP (<http://www.fuji.ac.jp/jaiop/index.html>) より)

日本社会心理学会は、社会場面における人間の心理行動を扱う、社会心理学の専門家が集う学会であり、産業・組織心理学会は人間の経済活動、組織行動に関心を持ち、心理学の立場からアプローチする学会である。いずれも、非常に幅広い研究のみられる学会である点に特徴がある。

さて、これらの学会で、2000年代頃から、大学生の就職活動や進路探索行動に関する研究が多く報告されるようになってきた。これらの研究について、次号で報告する。

(文責:大学教育開発・支援センター博士研究員(IR担当) 尾関美喜)

〇〇〇 新着資料のお知らせ 〇〇〇

大学教育開発・支援センターに、全国の大学・大学教育センター、関連の独立行政法人等から各種報告書が届いております。資料は、図書室(総合教育1号館6階613号室。センター共同研究室向かい)に所蔵しております。ご関心のあるもの、参照したいものがございましたら、お貸しすることができますので、ご連絡いただければ幸いです。

- ・ 『2009年度 大学コンソーシアム石川 EDフォーラム報告書 学士力育成と教育の質保証を目指して』大学コンソーシアム石川、2010年
- ・ 『障害学生支援についての教職員研修プログラム DVD&PowerPoint 障害学生支援についての教職員研修プログラム開発事業検討委員会最終報告』日本学生支援機構、2010年
- ・ 『第9回(平成21年度) 障害学生修学支援セミナー報告書』日本学生支援機構 学生生活部 特別支援課、2010年
- ・ 『法科大学院教育の理念と実践 2009年度 JLF 認証評価報告・再評価報告』日弁連法務研究財団、2010年
- ・ 『薫風・満天フィールド交流塾 ～遊びと農業の教育力が若者と社会を結ぶ～ 平成19-21年度活動報告書』秋田県立大学 薫風・満天フィールド交流塾運営チーム、2010年
- ・ 『コースデザイン・教授法ワークショップとFDネットワーク』(FD担当者必携マニュアル第4巻) 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室、2009年
- ・ 『2009年度(平成21年度)一橋大学 大学戦略推進経費プロジェクト講義=演習連結型授業の創出、実践、普及・単位実質化の試み- 報告書』一橋大学、2010年
- ・ 『一橋大学大学教育研究開発センター 全学FDシンポジウム報告書 レポート剽窃問題を考える』一橋大学大学教育研究開発センター、2010年
- ・ 『大学教育推進プログラム採択事業 三社協働型アクティブ・ラーニングの展開 平成21年度成果報告書』関西大学、2010年